伝統行事への支援・関わりは

辻 義満 議員

答 より活発に継承されていくよう取り組んでいく

問 伝統行事、祭りをどのように継承していくかが今後の課題だが。

市長 従来から、伝統文化を大事にするまちづくりを進めてきた。地元の保存会とともに、途絶えることのないよう活発に取り組んでいきたい。

問 衣装や道具類の修理など、資金面の苦労もあるのではないか。

社会教育課長 県指定の無形民俗文化財には、事業費の2分の1の県の補助がある。そういった相談があれば、協議をしながら申請したい。

増えていく空き家対策は

問 空き家などの適正管理に関する条例施行後の対応は。

市長 今日まで29件の立ち入り調査と、その結果に基づいた行政指導を行っている。当面は、これまで通りの対応を考えている。

問 所有者や相続人が不明な物件の対応は。

企画財政課長 空き家対策の特別措置法の施行により、市も調査できるようになった。まずは関係が深い相続人と折衝し、進捗がなければ相続関係者全員へ改善を求める。それでも改善されなければ行政代執行となる。

親子であふれた熊野神社の小松明
（平成28年1月9日）

待機児童ゼロの実現を図れ

弥吉 治一郎 議員

答 保育ニーズの高まりに整備が追い付かない

問 保育園の定数は1260人、本年度は定数オーバーの1333人が入園したが、このほか44人も待機児童が出た。

市長は「保育の必要量に応じた体制を確保する」「出産から子育てを切れ目なく支援する」と明言しているが、28年度の待機児童ゼロは実現するのか。

市長 子どもの出生数は、ここ数年横ばいで推移しているが、核家族化や共働きの増加など、社会環境の変化で保育ニーズが急速に高まった。整備が保育ニーズに追いついていないのが現状だ。

子育て支援課長 引き続き、市内保育所等と協議を行い、待機児童の早期解消に努める。

保育園を新設してはどうか

問 市では、定住促進に取り組んでいるが、移り住んでも子どもが保育園に入れないのは問題ではないか。待機児童が出るのは、保育園の定数不足が原因である。待機児童をゼロにするには保育園を新設し、定数を増やすべきでは。

市長 現在ある保育所の中で、何とか定数を確保していくことに全力を挙げていきたい。

保育所が足りない！受け皿の拡充を